

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	2	学 校 名	静岡県立松崎高等学校	校 長 名	八代 弘和
------	---	-------	------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	確かな学力を身に付け、社会を生き抜く力を育成する。	・授業に興味をもって取り組む生徒が80%以上 ・授業が分かる生徒が80%以上 ・年2回以上授業参観 ・授業アンケートの実施 ・年間を通した各教科の中高交流 ・新学習指導要領に則り、授業改善に取り組んだ教員が90%以上	・授業に興味をもって取り組む生徒73.0% ・授業がわかる生徒78.9% ・授業改善に取り組んだ教員100%	B	・前年度と比べ、授業がわかる生徒+3.3%、興味を持って取り組んでいる生徒が+8.0%だった。3年間通した観点別評価の体制ができたので、指導と評価の一体化に向けて年度末に検討を行う。次年度は評価のみならず、指導面の改善を図っていく。
		・授業以外の学習時間が平均して1日1時間以上の生徒 特進 70%以上 総合 50%以上	全体 40.8% 特進 56.8% 総合 34.3%	B	・全校で前年度と比べ、+10.9%だった。全学年で、生徒の学習時間の掲示が功を奏したと思われる。次年度も継続したい。特進の生徒の学習時間の伸びが悪いので別手立てが必要である。
		・読書1か月1冊以上の生徒が50%以上	38.8%	B	・朝読書を静かに行う環境づくりが必要である。
イ	道徳観を育成し、高い人権意識と社会人としての良識を培う。	・年間出席率99%以上 ・年間遅刻総数120回以下 ・清掃に集中して取り組む生徒が90%以上	・年間出席率98% ・年間遅刻総数122回 ・清掃に集中して取り組んだ生徒83.6%	B	・遅刻の多さが目立った。学年部との連携が必要。 ・欠課時数のやや多い生徒が数名いる。個々の事情が異なるため、個別の働きかけをし、授業にできる環境づくりを継続していく。（1年） ・1年次に欠席の多かった生徒

					の中には声かけや面談を通し出席状況が改善した生徒もいる。一方で皆勤の生徒が少なく全体を通し出席率が低くなりがちである。次年度に向け年間を通した出席、遅刻への意識付けを行いたい。(2年) ・進路に向けて準備をする中で、一部の生徒の遅刻や欠席が目立った。日々の指導や面談を通じて改善傾向にある。(3年) ・日常の清掃に加え、年3回の大掃除を行い、積極的に取り組む姿が見られた。一方で清掃の手順や方法を示すことでより質の高い活動にしていく必要がある。生徒数減に伴い設置する掃除用具の検討、校内の清掃状況の確認や点検活動を月1回程度実施することも次年度に検討したい。
		・伊豆松崎分校との交流活動において、両校生徒が協働する場面を増やす。 ・人権に関する情報を発信し、意識を高める。	・年間を通じて行事での交流や授業での交流ができた。	A	・今年度から、行事や放課後予定を密に確認するようにし、担当者の打ち合わせも確実に行い、両校の生徒が有機的に交流できるようにした。 ・各行事において松崎高校の生徒と伊豆松崎分校の生徒が交流を図る場面が増えているだけでなく、両校の教職員がコミュニケーションを図る機会も増えている。 ・人権教育教職員研修会を実施。情報モラル講座、思春期講座、人権講座等の講座を年間通して実施している。 ・人権教育に関する全体計画は作成しているが、年間計画が未作成のため、より良いカリキュラム・マネジメントに向けて作成を進めていく必要がある。 ・他者と関わることや社会の一員として生活していく上で、生徒の人権教育についてのニーズが高い。
		・信頼できる先生がいると答える生徒が80%以上	・信頼できる先生 81.6%	A	・個々の生徒の抱える課題や悩みに対して教員が丁寧で親身な対応を行っている。 ・生活委員が中心となって朝の

		・自ら進んで挨拶できる生徒が90%以上 ・常に正しい服装の生徒が90%以上 ・学校が楽しいと感じる生徒が85%以上	・自ら進んで挨拶 89.5% ・常に正しい服装 93.4% ・学校が楽しい 84.2%		挨拶運動を実施。校外においても、地域住民の方から挨拶をしてくれて気持ちいいという声を聞く。 ・学校が楽しいと感じる生徒の割合が昨年度と比較して、減少している。多様な生徒の居場所となる学校環境の整備について次年度以降も、弛みない検討を行っていく必要がある。
		・双獅祭等の学校行事を教職員と連携しながら、生徒会主体で組織的に運営する。	・対面式、双獅祭、球技大会を生徒会主導で運営した。	A	・生徒会執行部・各委員会を中心に生徒自身が主体となって企画、運営を行うことができた。双獅祭だけでなく、体育祭等の各種行事においても、より多くの生徒が企画、運営の当事者として関わる機会を持てた。 ・生徒の自治的な取り組みを促すための組織の仕組みや規約作成に着手することができた。 ・生徒数の減少による、今後の学校行事の実施方法や在り方について検討する必要がある。
		・部活動を通して心身の成長を感じた（部活動を通して「生きる力」を身につけたと思う）生徒80%以上 ・新体力テストで前年より記録を伸ばす生徒が75%以上	・部活動を通して心身の成長を感じた84.2% ・記録を伸ばした71%	A	・試合に勝利することや賞を受賞すること以上に、部活動に取り組むことが、自分自身の成長に寄与していると多くの生徒が思っていることが明らかとなった。 ・生徒数減により部活動の在り方について検討が必要である。生徒数減による機会の喪失や教職員の負担増をできる限り少なくする方策を議論する必要がある。 ・新体力テスト 2、3年生71%（男子80%、女子62%）が前年の記録を超えることができた。
		・歯科及び眼科の疾病治療率が前年より上昇する。 ・朝食摂取率が100% ・毎朝の健康観察を行う。	・歯科治療率は20.0%（R5 21.6%）、眼科治療率は28.6%（R5 21.6%） ・朝食接種率86.3%（R5 90.3%）	B	・歯科治療率は昨年度より低下したが、未処置者数は17人減少した。今後も継続して受診を呼びかけたい。 ・10月に実施した朝食摂取状況調査において、摂取率は全校で86.3%だった。また、特進89.7%、総合82.8%であり昨年より低下した。

					・全 HR で毎朝の健康観察を行っている。出欠状況に加えて、出席している生徒の健康状態も共有していきたい。
		・生徒の心の問題に対してスクールカウンセラー、学年、課、担任の間で情報を共有し、チームで支援する。 ・1分間カウンセリングを年2回実施する。	・心の問題を抱える生徒に対してスクールカウンセラーから助言をいただいた。 ・全校生徒との1分間カウンセリングを年2回実施した。	A	・1年生に対してスクールカウンセラーとの顔合わせを行った。また、スクールカウンセラーとのフィードバックを学年主任や担任も一緒に共有するなど、チーム支援でのカウンセリング組織が構築されてきた。 ・生徒の抱える課題や問題に応じて、これまで関わりのなかった外部機関（スクールソーシャルワーカー、町の要対協、派遣スクールカウンセラー、児童相談所、警察等）との連携を図ることができた。 ・1分間カウンセリング前に、年3回の学校適応尺度測定アセスメントを実施し、生徒の生活適応状況を客観的なデータとして共有することができている。 ・相談室通信を発行し、発達支持的な1次援助サービスの取り組みにも着手した。 ・次年度も生徒にとって「より開かれた相談室」となるため取り組んでいく。
ウ	キャリア教育を通じて、郷土に貢献し、社会の発展に寄与する人材を育成する。	・内定率 100% ・進路目標を確立（達成）できた生徒が 1年生 70%以上 2年生 80%以上 3年生 90%以上	・内定率 69.2%（1月20日時点） 1年 56.7% 2年 75.0% 3年 96.4%	B	・外部の人材と接する機会は、十分とることができた。個別の実習・経験と、自らの就業意識や進路希望との結びつけが不十分であった。（1年） ・進路研修等を通して様々な選択肢を知る機会を作ることができた。今後は進路実現へと具体的に結び付けたい。（2年） ・目標の確立はできたため数値としては高いが、達成までの取り組みが不十分な点もあった。（3年生）
		・進路研修、進路ガイダンス等において事前、事後の指導を徹底する。 ・勤労観・職業	・勤労観・職業観が深まった生徒 75.0%	B	・今年度初めて就職ガイダンスを実施した。今後は地元企業との結び付きだけでなく、県内、県外問わず、生徒の希望に沿った企業情報の提供を目指していきたい。

様式第3号

		観が深まった生徒 90%以上			
エ	地域と連携し、連携型中高一貫教育を発展的に推進する。	・中高での定期的な意見交換を行う。 ・組織的で系統だった新しい「西豆学」の運用を行う。	・1, 2年生において地域と連携した「西豆学」を実施	B	・探究委員会の設置により、系統だったものが展開できた。次年度以降はより探究のサイクルに適したものを検討する必要がある。 ・地域の人材、特産、文化にふれる機会は十分であった。1年次に得た地域のリソースを、自らの問いとその探究に関連付けていくことが課題である。(1年) ・新しい形での総合的な探究の時間の実施となり、活動のつながりや位置づけに課題も残ったが2年間継続した形で実施することができた。(2年)
		・推進会議、運営委員会、各教科部会等を開催し、事業を円滑に実施する。 ・地域への発信を定期的に行う。	・5月、6月、10月に教科部会、委員会、合同研修会、教科部会を行った。推進会議は年間3回行った。西豆の教育の発行を3月に行う。	A	・各会議を計画通り開催し、事業の進捗の共有をした。 ・クラウドを利用して各校の部活動のスケジュールの把握を容易にし、中高で交流することができた。 ・連絡を密に行うことで事業を円滑に進めることができた。 ・次年度に向けて事業の見直しを行った。
		・学校ホームページ・SNS等の更新を行事ごと適宜行う。 ・学校は積極的に情報発信を行っている と答える生徒・保護者80%以上	生徒 65.8% 保護者 71.7%	B	・ホームページの移行やSNSを使った情報発信を定期的に行えた。 ・39メールやClassiを活用した情報発信の方法を考えたい。
オ	安心・安全に生活できる環境を整備する。	・校内外、通学路等の点検を行う。 ・交通指導員の指導件数を年間10件以内にする。	・校内及び校地付近の様子を常に気にしながら、毎日の業務を行うことができた。	B	・気づいた事を報告・連絡・相談することができ、危険箇所への迅速な対応ができた。 ・職員一人一人が同じ意識で校内外の様子を気にしたい。 ・各学期に教室や施設の点検を行い、不備のある個所については修繕を行う等対応している

様式第3号

カ					が、施設設備の破損した状態で発見されることがあり、施設や用具を大切に使用することや公共物を使用する上でのモラルについて継続的な指導が必要である。 ・交通指導員の指導件数は2件(R5 8件)と大幅に減少した。 ・各学期の自転車マナーアップ街頭指導に、本校は交通安全指導員や教員だけでなく生活委員会も参加し、自転車の安全な利用について啓発活動を行っている。
		・危険箇所の把握に努めるため、週1回以上の校内巡回を行う。	・常に気にしながら、毎日の業務を行うことができた。 - 特に悪天候の時期には、現地確認を徹底した。	A	・校舎裏斜面の地崩れや倒木について、樹木の伐採、伐採木の整理を行った。 ・危険箇所等の周知と経過観察を行った。 ・職員一人一人が同じ意識で校内外の様子を気にしたい。
		・校内避難訓練を3回実施する。 ・1回以上、地域防災訓練へ参加した生徒が90%以上 ・緊急時連絡メールを、全学年で90%以上の保護者及び生徒が登録する。	・3回実施した。 ・地域防災訓練へ参加した生徒30.8% ・登録している保護者・生徒92.3%	B	・校内だけでなく、自衛隊と連携した訓練を行うことができた。 ・9月は台風のため中止になったことにより、参加した生徒が減ってしまった。 ・教職員を含めたメール配信の登録がほぼできているが、配信されないなどのトラブルへの対応をスムーズにする必要がある。
	教職員の研修・研究活動を推進し、資質能力と指導力の向上を図る。	・年3回以上の全体研修会を実施する。 ・研修が業務改善の役に立ったと答える教員70%以上	・年3回の職員研修を実施した。 ・研修に出席した教員のうち100%	A	・探究に関する研修会は職員全体で生徒の探究活動に対する支援について学ぶことができた。 ・役に立ったと答える教員が100%だった。研修後の改善に対する振り返りを実施する必要がある。
		・年2回の教職員面談において、自己の課題と達成目標を確認	・5月の期首面談で目標の設定について、1月の期末面談で目標達成状	A	・学校の現状に合わせた目標設定ができるように助言できた。 - また、日常の業務進行状態についても声掛けを行い、スムーズな業務の進行につながるように

様式第3号

		する。	況について確認と助言を行った。		心掛けた。
キ	教職員自らが適切な勤務管理を行う。(ワークライフバランスの確立)	・月間の時間外業務が80時間以上になった場合には、自己診断チェックリストを提出し、必要に応じて管理職と面談を行う。 ・年休を取得しやすい環境づくりを行う。	・勤務時間管理システムで時間外業務時間の確認を行い、必要に応じて面談や声掛けを行った。 ・年休を取得しやすいと感じている職員93%	B	・月間80時間を超える時間外業務のある職員には健康確認や時間外業務を減らす工夫、年休取得などの声掛けを行った。医師との面談を行ったケースもあった。業務改善については職員からの声をもとに取り組んでいるが、まだ改善の余地がある。 ・引き続き、職場の雰囲気づくりに努める。
ク	効率的で適正な事務を執行する。	・監査や検査等で指摘がないようにする。	・実施済の監査・検査について、指摘事項は0件である。	B	・監査・検査時のアドバイスを今後の事務処理に活かす。 ・研修会などを有効に活用し、事務処理の改善に繋げる。
		・窓口や電話の対応において、苦情がないようにする。	・苦情は0件であった。	A	・全員が親切丁寧な対応を心掛けた。 ・スムーズな取次ぎができるよう学校全体で情報共有を行う。
		・事務室からの連絡や提出書類については、職員、生徒及び保護者に分かりやすいものとする。	・閲覧しやすいよう掲示板やメールを利用した。	B	・内容に適した通知方法を考える。 ・提出物を基に、簡潔で分かりやすい文章を考える。